

# 国語

## 「どのように学ぶか」という学びの質を重視した授業改善を目指して

中教審は、「どのように学ぶか」という学びの質を重視した授業改善を実現するための視点として、主体的・対話的で深い学びを示しています。

国語科では、これまで培ってきた学び合う授業をいかしつつ深い学びが成立する授業を目指します。そのために、深い学びの姿を明確にし、そこに至る過程で学びの質を重視した授業改善を行います。



県中教研 国語部 全体部長  
上越市立三和中学校

校長 西條 正人

### ○単元構想シートに明記！授業改善に向けた「学習者」の視点を

主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の中で全てが完結されるものではないので、単元や時間のまとまりを見通した授業改善を行うことが重要です。つまり、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を考えることは、単元や題材などのまとまりをいかにバランスよく考えるかにつながるとも言えます。

今回導入した単元構想シートに、深い学びでの「学習者（生徒）の姿」を明記したことは、授業改善に向けた大きな一歩と言えます。ただ、「学習者」の視点の裏には必ず「授業者」の視点（どのように教えるか）が存在していることを忘れずに、授業改善を進めていくことを肝に銘じていく必要があります。

	授業改善に向けた「学習者」の視点	授業改善に向けた「授業者」の視点
深い学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる</li> <li>○知識を相互に関連付けて、より深く理解する</li> <li>○情報を精査して考えを形成する</li> <li>○問題を見出して解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資質・能力を焦点化する →付けたい力を明確にする</li> <li>○単元や各授業の目標を把握する</li> <li>○ねらいや達成した子どもの姿を具体化する</li> <li>○教材の価値を把握する</li> <li>○単元及び各時間の計画を立てる</li> <li>○目標の達成状況を把握する</li> </ul>

国立教育政策研究所プロジェクト研究「学校における教育課程編成の実証的研究（H29年度～R3年度）より

## ○深い学びの姿の実現に向けた実践ポイント

「深い学び」の実現について、新潟県立教育センターは、主体的・対話的で深い学び実践ハンドブックの中で、「深い学び」実践ポイントとして次の内容を明示しています。国語部では、「学習者」の姿を明確にするとと

もに、「授業者」の視点を意識してきました。その中で、以下に示した実践ポイントを組み入れながら、授業改善につながる授業デザイン（指導案に明示）を行いました。

### ◇育成する資質・能力の明確化

- ・単元で育成したい資質・能力は何かを明確にもつ。
- ・育成したい資質・能力を体現している生徒の姿を具体化する。

### ◇学ぶ意欲を引き出す課題の工夫

- ・生徒の疑問をもとにした「問い」を作成する。
- ・「解決したい」「知りたい」という思いをもてるよう課題の内容や提示の仕方を工夫する。

### ◇4つの「場」を生かした単元構成の工夫

- ・見通しをもつ「場」 → 課題解決に向けたつながりのある学習過程や、身に付けさせたい資質・能力を生徒と共有する。
- ・考えを伝えあう「場」 → 考えを交流させることで、自分の考えを違う視点から捉え直したり、考えの更新や再構成を図れるようにする。
- ・活用・発揮する「場」 → 身に付けた資質・能力を活用・発揮する学習活動を設定し、学びに目的意識をもたせ、更なる定着を図る。
- ・振り返りの「場」 → 学んだことの意義を実感させ、学びに向かう力・人間性等の育成につなげる。

「主体的・対話的で深い学び実践ハンドブック（新潟県立教育センター）」より抜粋



## 特に、“課題の工夫” “伝え合う場”の充実による授業デザイン

つながりのある学習の実現には、思考して問い続ける必要があります。また、生徒が「解決したい」「知りたい」という思いがもてるような課題や提示の仕方を工夫することが求められます。そして、学びを深めるためには、可視化した考えを伝えあう（交流する）場が必要となってきます。特に、考えを伝えあう

場では、自分の考えを違う視点から捉え直すことが大切です。交流の視点として、自己評価の他に他者からの評価を取り入れ、学びの価値付けにつなげていきます。教師の意図的な価値付けが、新たな視点の気づきを促すと考えます。

## 国語 重点目標

言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育てるために、話す・聞く、書く、読む力を育み、学ぶ意欲をもって学習する国語の学習指導に努める。

- 学び合う言語活動を通して、考えを広げたり深めたりし、思考力や想像力を育てる。
- 考えを明確にし、構成を考えて文章を書く力を育てる。
- 話の内容や意図に応じた表現力を育てる。
- 目的に応じて主体的に文章を読み、内容を的確に読み取る力を育てる。

# 国語 <上越地区・柏崎市刈羽郡中教研>

## 「走れメロス」

研究主題：根拠を示しながら作品に対する新たな見方・  
考え方をもつ生徒の育成

開催日：11月30日（水）

会場校：柏崎市立第二中学校

公開：1学級

授業者：2年 赤沼 祐子

指導者：上越教育大学 教授 佐藤 多佳子 様



研究推進責任者  
柏崎市立鏡が沖中学校  
大島 彩弥香



会場校教科担当者  
柏崎市立第二中学校  
赤沼 祐子

### こんな深い学びの姿を目指します

私たちは、国語科指導の核となる「論理的な思考」を「根拠と意見のつながりを適切に判断する力」と捉えました。文学教材の学習においては、根拠となる表現を具体的に示しながら、自分なりの作品解釈を作り上げることを学習ゴールとします。また、自他の考えを表現する活動を通して自分の判断を客観的に確認したり問い直したりして、生徒が作品に対して新たな価値付けをする姿を目指します。

### 深い学びにいたるポイント

#### ポイント1

#### 批評的な視点

言葉に着目し、意味を問い直したり、比較したりする読みの姿勢をもつことで、文脈の中での言葉の意味を捉えたり、作者の意図を読み取ったりすることができる。

【例】：「大人になれなかった弟たちに……」  
（国語1 光村）

「あんなに美しい顔」（P99L10）  
筆者は母の顔を「美しい」と表現しているが、他の言葉と比べるとどういった印象の違いがあるか。なぜ筆者は「美しい」という言葉にしたのだろうか。

#### ポイント2

#### 問い立て

生徒の疑問を生かし、生徒自ら解決したい「問い」を設定することで主体的な学習を促し、課題意識をもたせる。

#### ポイント3

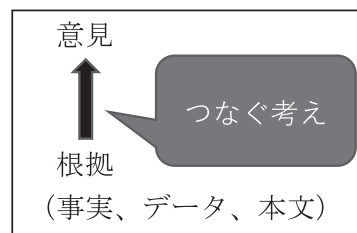
#### 学びの視覚化

気づきや疑問点を言語化することで1時間の授業を通して学んだことを認知し、それを積み重ねていくことで、考えの更新や深化につなげる。

## 単元(題材)の様子

### ●本単元に入る前に、別の教材を用いて学習方法を理解する

- ・『思考のレッスン 根拠の吟味』で、説得力を高めるためには意見と根拠をつなぐ考えが重要であることを確認します。
- ・『盆土産』で問いの立て方や問いの探求方法をつかみます。



### ①② 初読後、探求する「問い」を決める

登場人物の言動や本文の言葉に注目しながら、「問い」を考えます。答えがすぐに分かったり、本文から読解できなかつたりする「問い」を話し合いながら省いていきます。最終的に残った探求できそうな「問い」の中から、生徒一人一人が探求したい「問い」を決めます。

ポイント1

ポイント2

### ③④ 個人や生徒同士で「問い」の答えを探求する

まず、本文を根拠に個人で「問い」の答えを考えます。本文をどのように解釈したのか(根拠と意見のつながり)を明確に考えます。同じ「問い」を探求している生徒や違う「問い」を探求している生徒同士で話し合いながら答えを探求します。研究会では、答えの探求場面を公開する予定です。

研究会



### ⑤⑥ ミライシードを用いて、発表を行う

探求した「問い」と答えをミライシードのカードに簡潔にまとめ、本文の解釈は口頭で発表します。同じ「問い」の答えを比較、検討し、本文の解釈を深めます。



### ●毎時間、学習した内容を自己評価シートに記入する

「わかったこと」、「考えたこと」を記入することで、1時間の学習内容を整理します。単元の終末では、単元の振り返りを記入し、自身の考えの変容を確認したり、新しく生まれた考えに気づけたりするようにします。

ポイント3

# 国語 <中越地区・長岡市・三島郡中教研>

## 「『故郷』からのメッセージ」

研究主題：言葉に着目し、対話を深めながら  
読みを創り上げる生徒

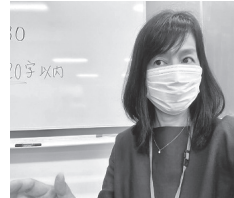
開催日：11月15日（火）

会場校：長岡市立川口中学校

公開：1学級

授業者：3年 長谷川 総子

指導者：長岡市立与板中学校 校長 小池 進輔 様



研究推進責任者  
長岡市立西中学校

小嶋 祐子



会場校教科担当者  
長岡市立川口中学校

長谷川 総子

### こんな深い学びの姿を目指します

イメージや表現の一部から「読めたつもり」になるのではなく、学習課題を追究する中で文章全体と細部に目を向け、構成や描写などの表現を根拠に、読みを深める姿を目指します。また、自他の読みのずれから問い直しが生まれる対話を通して、解釈を広げたり深めたりしながら自分の読みを創り上げていく姿を目指します。

### 深い学びにいたるポイント

#### ポイント1

#### ずれ(対立や多様性)が生まれる学習課題を設定する

対立や多様性が生まれる学習課題を設定します。自他の読みのずれが顕在化することで、生徒の課題追究の意欲が高まり、対話や読みが深まります。

#### ポイント2

#### 全体にも細部にも目が向く「全文シート」を活用する

全文シートにラインを引いたり書き込みをしたりしながら学習課題を追究します。文章全体を俯瞰しながら細部にも目を向けることで、文脈の中での言葉の意味、言葉と言葉との結びつきをとらえ、「深い読み」を創り上げることができます。また、自他の考えを可視化することができるため、対話が空中戦になりません。

#### ポイント3

#### 教師のコーディネートで対話や読みを深める

対話の場面が互いの考えの発表会に終始してしまうことが少なくありません。そこでの教師の重要な役割は、単なる司会でもタイムキーパーでもなく、「深い読み」に向けての臨機応変なコーディネートです。

- 1 考えをき(聞・聴・訊)きとる、つぶやきを拾う
- 2 考えを受け止める
- 3 考えの理由・根拠を問う(訊く)
- 4 全体に投げかける
- 5 ずれを顕在化・共有させ、論点を焦点化する
- 6 対話や思考を可視化するために、ICTを活用したり構造的、対比的に板書したりする
- 7 とぼける、肩入れする
- 8 揺さぶる、切り返す、問い返す
- 9 補助発問・補助教材を提示する
- 10 方向性を示唆、指示・助言する
- 11 間を取ったり待ったりする
- 12 教室内の立ち位置を考慮する

## 単元(題材)の様子

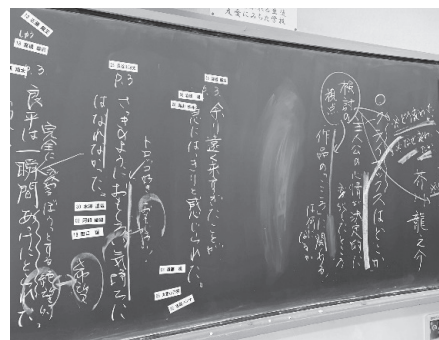
①② 『故郷』を通読します。作品のメッセージについて考え、「『故郷』から受け取ったメッセージ」として書きます。考えを交流させ、メッセージを読み深めようという目的意識を高めます。全文シートを用いて、情景描写や比喩などにも着目しながら、登場人物とその関係、主人公の帰郷中の出来事を読んでいきます。



③④ 作品のメッセージに迫るために、学習課題「クライマックスはどこか」について全文シートを活用しながら考え、自分の意見を持ちます。

大きく「だんな様!…」と「思うに希望とは～それが道になるのだ」の二つに分かれることが予想されますが、ずれが顕在化することで、生徒は「友だちの考えの理由を聞きたい」「自分の考えの理由を伝えたい」「どこが本当のクライマックスなのか」「本文を読み返したい」「もっと読み込みたい」などの意欲を高めます。

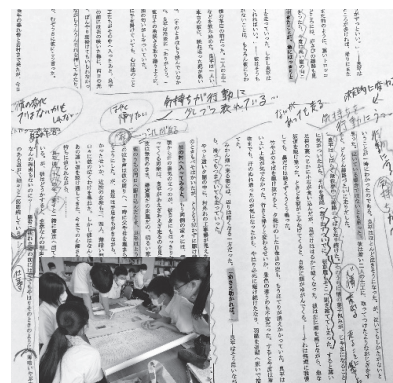
ポイント1



⑤(①～⑥) 全文シートに書き込みながら、自分の読みを創ります。展開の仕方など文章全体を俯瞰するとともに、細部の表現にも目を向け、自分の「クライマックスはここだ!」を支える根拠を明確にしていきます。

書き込んだ全文シートをもとに、同じ考えをもつ生徒同士で意見を交流します。根拠を示しながら筋道を立てて伝え合い、対話を深めます。そして、根拠や書き込みが増えた全文シートを使って、自分の読みをさらに練り上げます。

ポイント2



### 研究会

⑥ 本時は「クライマックスはどこか」についての考えを対話を通して深め、確かにしていく授業を予定しています。

前時の小グループでの意見交流を原動力に、全体で話し合います。「クライマックスと作品のメッセージとの関係」という観点を持ちながら、自他の考えを比較・検討し、自分の読みを問い直しながら創り上げます。

「なぜ〇〇の部分(場面)が必要なの? 要らないんじゃない!」「本当に?」などと揺さぶることで、本文に立ち返る姿を引き出すことができます。

「そこで何が(どう)変わったの? なぜ変わったの?」「～とすると、メッセージは?」などと問いかけることで、話し合いを焦点化することができます。

ポイント3



⑦ 作品から受け取ったメッセージについて、どう表現すれば友だちに伝えられるか、言葉にこだわりながら、再度自分の考えをまとめ、交流させます。

最後に、読みの深まりを自覚できるよう、①で書いたものと比較しながら単元全体を通しての学習の振り返りを記述します。

# 国語 <新潟地区・新潟市中教研>

## 「絵画の魅力を効果的に伝えよう」 「走れメロス」

研究主題：学び合いを通して、生徒が言葉による見方・考え方を使って考えを深め、自らの成長を実感する国語科指導

開催日：11月10日（木）

会場校：新潟市立五十嵐中学校

公開：2学級

授業者：2年 木村 悠子 「絵画の魅力を効果的に伝えよう」

2年 岸田 知己 「走れメロス」

指導者：宮城教育大学 名誉教授 相澤 秀夫 様  
新潟市教育委員会 学校支援課指導主事 佐藤 恵美 様



研究推進責任者  
新潟市立小針中学校  
小澤 ひろみ



会場校教科担当者  
新潟市立五十嵐中学校  
亀島 望

### こんな深い学びの姿を目指します

「絵画の魅力を効果的に伝えよう」について、魅力を伝えるために用いている表現や解釈の交流・検討を通して、言葉による見方・考え方を働かせて、相手に絵画の魅力が十分に伝わる鑑賞文を書く姿が見られることを目指します。

「走れメロス」の主題について、日記を作り、作品に込められた深い意図を言葉による見方・考え方を生かして読み取り、仲間との検討を通して、自分の読みを確かめ、読み方が深まった自分をメタ認知する姿が見られることを目指します。

### 深い学びにいたるポイント

#### 「絵画の魅力を効果的に伝えよう」

##### ポイント1

##### 相手意識と目的意識を大切にする

「君は『最後の晩餐』を知っているか」「『最後の晩餐』の新しさ」から学んだ絵画の見方や表現の工夫を生かし、葛飾北斎の絵画を初めて見る人にも魅力が伝わるような鑑賞文を書きます。

##### ポイント2

##### 鑑賞文を交流・検討する

鑑賞文の班内交流・検討を通して、絵画の解釈を深め、魅力をよりよく伝える表現方法を見出します。

#### 「走れメロス」

##### ポイント1

##### 登場人物になりきって日記を書く

作品に込められた深い意図に迫るために、時間軸による各場面における、登場人物の心情に着目して登場人物になりきり、4日間の日記を書きます。

##### ポイント2

##### 「共有ノート」を活用する

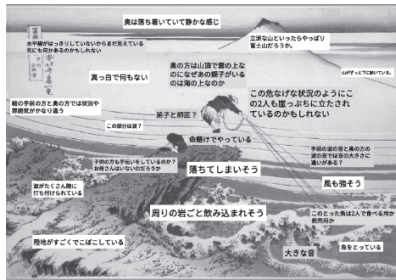
登場人物になりきって書いた日記を読み合い、改めて主題を考え、ロイロノートの「共有ノート」でグルーピングすることで作品の主題に迫ります。

## 単元(題材)の様子

### 「絵画の魅力を実効果的に伝えよう」

①②③ 「君は『最後の晩餐』を知っているか」『最後の晩餐』の「新しさ」の文章を読み、観点を決めて比較します。それぞれの文章の構成や表現の特徴等、わかったことを発表し共有します。

④⑤ 前時で学んだ絵画の見方や表現の工夫を生かし、葛飾北斎の絵画を構図や色彩などの観点に沿って多角的に見て分析し、そこから読み取れることや分析に基づく解釈をもとに絵画の魅力をつかめます。自分の捉えた絵画の良さや具体的な特徴、感じたことをロイロノートの絵画面面に付箋で表し、互いに交流することを通して、絵画のもつ魅力への気づきを確認なものにします。それをもとに相手意識・目的意識を大切に鑑賞文を書いていきます。



⑥ 絵画を初めて見る人にも十分魅力を伝えることのできる鑑賞文となるよう、班で下書きを読み合います。そして、iPad上で良いところに赤線、改善・疑問点に青線を引き、それをもとに交流・検討を行います。仲間のアドバイスを参考に鑑賞文を書き改め、再度互いの鑑賞文を読み合います。そして表現の高まりを相互評価します。



### ポイント2

⑦ クラスで最終の鑑賞文を発表します。学習のしめくくりとして、絵画の魅力を手伝いに十分に伝えるという目的の達成に向けた、自身の表現の高まりを振り返ります。

### 「走れメロス」

①② 「走れメロス」を読み、各自の感想、作品の主題をロイロノートに書きます。各自の考えを根拠とともに班で発表し合い、自分と仲間の差異を知ります。

③④⑤ 作品の設定と構成を把握し、日にちをもとに4場面に区切ります。各場面での出来事や登場人物を整理して、情景描写や人物の心情に着目して読み、メロス、セリヌンティウス、ディオニス3人それぞれの4日間の日記を書きます。生徒たちは登場人物になりきって作品を読み、心中を想像しながら日記を書くことで他の登場人物との関連性をより意識し、作品の魅力に迫ります。



### ポイント1

## 研究会

⑥ 3人の登場人物になりきって書いた日記を代表が発表することで、自分が担当した以外の登場人物についてもより深く理解できます。その上で、作者が物語を通して伝えなかったことを根拠とともに考え、ロイロノートの「共有ノート」に付箋で貼り付け、班内でグルーピングして作品の主題に迫ります。初読後に書いた主題と比較をして、自身の読みの深まりを確認します。

↓「共有ノート」のイメージ

メロス	ディオニス王	セリヌンティウス
友情	人間の弱さ	信頼
友情		
正義	裏切り	友情
諦めない		

⑦ ロイロノートアンケートで「走れメロス」の授業を振り返り、学習を通して学んだことや深く考えたこと、作品の魅力などを自分の言葉で表現します。



# 国語 <下越地区・二市北蒲中教研>

## 「漢詩の世界」

研究主題：自分の考えを深め表現できる生徒の育成  
～言葉による見方・考え方を働かせる学び合いの工夫～

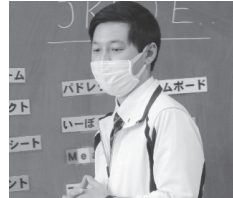
開催日：11月1日（火）

会場校：阿賀野市立京ヶ瀬中学校

公開：1学級

授業者：2年 野口 鮎子

指導者：下越教育事務所 指導主事 磯部 睦 様



研究推進責任者  
胎内市立築地中学校

小林 優一



会場校教科担当者  
阿賀野市立京ヶ瀬中学校

齊京 正浩

### こんな深い学びの姿を目指します

対象と言葉や、言葉と言葉の関係について、比較・関連付け等の思考方法を活用しながら言葉の意味、働き、使い方等を捉えることが、自分の思いや考えを深めることにつながると考えます。本単元では、漢詩を他の詩と比較して読むことで、共通点や相違点をもとに、詩の主題や主題を表現する方法の特徴について理解を深める姿を、また、漢詩の主題がどの表現によってあらわされているかを絞り込む話し合いと、現代語の詩を創作する学習を通して、よりよい表現を模索する姿を目指します。

### 深い学びにいたるポイント

#### ポイント1

#### 言葉を通じて自己と向き合える課題を設定する

本単元では、「言葉を通じて自己と向き合える課題」として、現代の別れの場面の詩を創作します。漢詩に表れたものの見方や考え方、表現の仕方についての学びを生徒自身の表現の模索につなげます。

また、授業の導入で学習意欲と見通しをもたせることが主体的な学びの実現につながると考えます。そのために「学習内容の意味や価値」「学習のプロセス」を教師と生徒で共有しながら授業を進めていきます。

#### ポイント2

#### 「言葉による見方・考え方」を働かせた意見交流の場を設定する

「言葉による見方・考え方」を働かせた意見交流の場を設定し、比較・分析して得た情報をもとに自分の考えを見直すように働きかけることで、深い学びの姿につなげます。

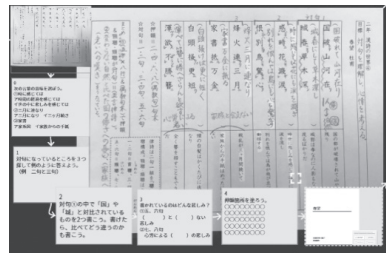
#### ポイント3

#### 自己変容に気付かせる

終末には、初発の考えと変わった点や、他者の考えとの共通点や相違点を整理させることで、自己変容への気づきを促し、課題解決の達成感や深い学びの実感につなげます。

## 単元(題材)の様子

①② 『春暁』『春望』を読み、漢詩の形式や現代語訳を理解します。リズムを味わいながら音読し、漢詩の形式に親しむ姿や、語注を手がかりに現代語訳を学ぶ姿、それぞれの詩に表れた主題について考える姿を目指します。



③ 『黄鶴楼にて孟浩然の……』を、リズムを味わいながら音読し、形式・現代語訳を学びます。その後、他の漢詩『元二の安西に使ひするを送る』との比較をとおして共通点や相違点を明らかにすることで、『黄鶴楼にて孟浩然の……』の主題や表現の特徴を捉えることができます。比較の際には、自身の別れの経験と関連付けて考えさせることや、観点を提示して自分の考えを表しやすくすることに留意します。

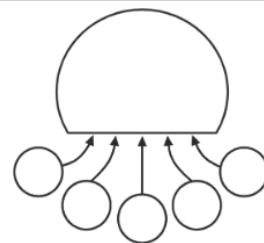
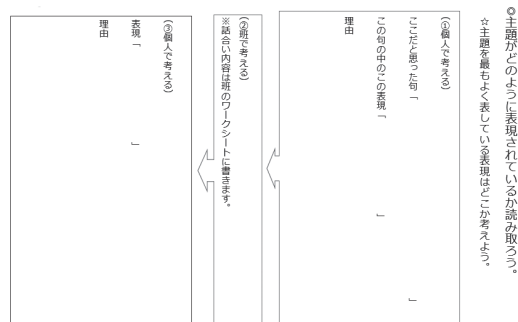
ポイント1      ポイント2      ポイント3



### 研究会

④ 『黄鶴楼にて孟浩然の……』の主題である「友との別れの寂しさ」が最もよく表れている表現を探し、絞り込む話合いを通して、漢詩の主題や表現の特徴について捉え直します。話合いの過程で、一語一語に込められた意味、「寂しい」と言わずに感情を伝える表現の工夫について考えを深めます。

ワークシートや思考ツールを活用して考えを整理・可視化します。クラゲチャートを用いる場合は、頭の部分には、選んだ表現を、足の部分にはその語がもつ意味やイメージを記入し、表現と思想の関係性について意味づけます。

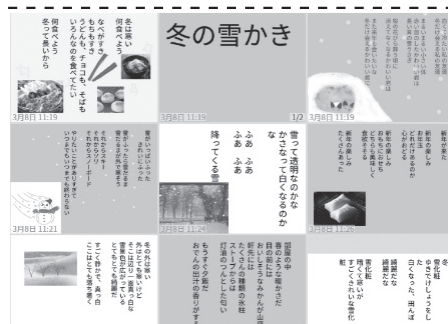


ポイント2      ポイント3

⑤ 『黄鶴楼にて孟浩然の……』の主題や表現の工夫を踏襲して、自身の経験や感性と結び付けて現代語の詩を創作します。

単元の終末に、現代の別れの場面の詩の創作という活動を設定し、生徒自身の表現の模索へつなげます。

ポイント1      ポイント3



⑥ 創作した詩をタブレットで提出し、級友と詩を読み合い、お互いの表現を評価し合います。

